

佐渡米通信

こめ〜る

2021年 05 月号

発行日:2021年5月

編集人; 佐渡農業協同組合 営農事業部販売企画課 渡辺(清)・駒形・澁谷
jasadoeinoubu20@dune.ocn.ne.jp

稲作の開始を告げる種まき猿

金北山の雪解けとともに山肌が出てくると、その模様が腰籠をつけた猿が種をまいているように見えます。国仲平野の稲作の準備を始める目安とされてきました。

今年は、例年よりも現れるのが2週間ほど早いとのこと。播種作業の準備や畔塗り作業など、令和3年の米作りがいよいよ始まりました。



※イメージです

健苗づくり

春作業が始まり、育苗管理・本田準備といった米の品質を左右する大切な作業が忙しくなってきました。佐渡では減減栽培のため、特に苗の良し悪しが重要ポイントとなります。化学肥料、化学農薬の使用量が制限されるため、1年間の計画を立て適切な栽培管理を行っています。



農地を潤す水の確保はばっちり!

佐渡には農業用水を貯めるダムが9つあり、にいがた農業水利施設百選に選ばれています。その水源は大佐渡・小佐渡山脈です。例年よりも早く雪解けがすすみ、ダムはどこも満水状態! 田植えに必要な水の確保が出来ました。



生きものたちの活動も活発化

田植えを始める前に、代掻きした田んぼには水が張られます。佐渡全域で「生きものを育む農法」に取り組んでいるので、田んぼや畦畔には水棲生物など生きものが溢れています! それらを狙って朱鷺が餌をついばむ姿が見られます。



資源循環型農業

4月初旬に、今年度初の高千家畜市場が開催されました。市場では、成牛4頭を含む125頭全てが競り落とされ、最高価格は91万円を付けました。佐渡では、耕畜連携による資源循環に取り組んでいます。牛の排泄物は集められ、大量の粃殻と混合・発酵して堆肥となり、ほ場に還元されます。

